

# 狂言公演

## 野村万作・萬齋



室町時代から連綿と続く笑いの伝統芸能。  
人間国宝である野村万作、大河ドラマから  
映画、舞台と、幅広く活躍する野村萬齋  
はじめ「万作の会」の出演。

狂言三代が貴方を古典の世界にご案内します。



2023 8/19 (土) 開場 13:30  
開演 14:00

倉敷市芸文館 ホール

倉敷市中央1丁目18番1号 TEL: 086-434-0400  
JR 倉敷駅 (山陽本線) から徒歩 15分 / バス中央2丁目下車すぐ

特等席 5,000円

一等席 4,000円

大学生以下 500円 (一等席のみ)

〈全席指定〉 当日各500円増

プレイガイド

- チケットぴあ (Pコード: 518-919) <https://t.pia.jp/>
- ローソンチケット (Lコード: 63843) <https://l-tike.com/>

チケット発売日

会員先行: 令和5年 5月12日(金)

一般発売: 令和5年 5月19日(金)

※就学前のお子様の入場はご遠慮ください。  
※前売で完売した場合は、当日券の販売は  
ありません。



野村萬齋



野村万作  
(人間国宝)

インターネット予約はこちらから▶

<https://arsk.jp/>





解説 中村 修一

狂言

# 萩大名

大名

野村 万作

太郎冠者

野村 裕基

亭主

岡 聡史

休憩二十分

狂言

# 悪太郎

悪太郎

野村 萬齋

伯父

石田 幸雄

僧

中村 修一

## あらすじ

### 萩大名 はぎだいみょう

近々都から帰国することになった田舎大名が、太郎冠者の案内で、とある庭園に萩の花見に出かける。風流者の亭主が、来客に必ず一首所望することを知っている太郎冠者は、「七重八重 九重とこそ思ひしに 十重咲きいづる 萩の花かな」という聞き覚えの歌を大名に教えておく。見事な庭を楽しんだ後、いよいよ歌を詠むことになるが、大名は…。

秋の風情豊かな庭を舞台に、豪快な大名と繊細な和歌の世界のギャップが笑いを誘います。三人の軽妙なやりとりをごゆっくりお楽しみください。

### 悪太郎 あくたろう

乱暴者の悪太郎は、自分の酒癖の悪さに意見する伯父を逆に脅してやろうと、長刀を携えて訪ねるが、伯父の家でも酒を飲んで酩酊し、帰る道すがら眠り込んでしまう。心配して後をついてきた伯父は、道端に寝ている悪太郎を見つけて僧形にし、夢うつつの中で「南無阿弥陀仏」と名を授けて去る。さて、目を覚ました悪太郎は、念仏を唱える僧の声を耳にし…。

前半は悪太郎の酔態、伯父との掛け合いなど狂言らしい笑いの場面が続きますが、悪太郎が酔いから醒める後半一転、悟りの境地へとダイナミックに展開します。中世の人の運命観が垣間見える名作です。

## 狂言とは

狂言は南北朝の頃に発生し、流動しながら能とともに兄弟のような形で発展し、室町時代に至って完成された芸能です。

能は莊重・悲壮な内容のものが多く、舞歌を中心とした幻想的・象徴的な劇であるのに対して、狂言はセリフとしぐさを中心とした写実的・喜劇的な対話劇です。

内容も現実に根ざしたものが多く、能と違って歴史上の人物もあまり登場しません。

おろかな大名、たくましい家来、ものほしげな僧、わわしい妻、こけおどしの山伏、愛しげな鬼、はては猿、狐、狸、蚊の精までが登場し、日常的な事柄のうちに、庶民の誰もが持っている生活感情の機微を洗練された笑いに表現しています。

能楽の大成者世阿弥は、品のいい笑いを生み出す「幽玄の上階のをかし」であれと言っています。この狂言の笑いこそ真に人間らしい感情の表出であり、健康で大らかな人間への賛歌であると言えるでしょう。

また、狂言は非常に優れた演技技術を擁しています。声を使う場合にも、しゃべる、語る、謡うという技術があります。身体を使う場合もアクロバティックな技もあれば、様式的な舞もあり、パントマイムに近いような写実的な所作もあります。

狂言は「素手の芸」と言われます。道具をほとんど使わず、声と身体だけで空間や時間を埋め、ないものがあるように見せるのです。想像力を働かせて自由にご覧下さい。

## プロフィール

### 野村万作

Nomura Mansaku

1931年生。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)、文化功労者。日本芸術院会員。父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の一つの頂点を感ぜさせる。国内外で狂言普及に貢献。ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲「釣狐」に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞したほか、紀伊国屋演劇賞、日本芸術院賞、松尾芸能賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章等、多数の受賞歴を持つ。「月に憑かれたピエロ」「子午線の祀り」「秋江」「法華侍」「敦・山月記・名人伝」等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。近年では「檜山節考」の再演に取り組み、大きな成果をあげている。「狂言を生きる」(朝日出版社)を刊行。

### 野村萬齋

Nomura Mansai

1966年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演・舞台「敦・山月記・名人伝」「子午線の祀り」「能・狂言」「鬼滅の刃」「ハムレット」など古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊国屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、2021年観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞大賞ほか受賞多数。東京藝術大学客員教授。石川県立音楽堂邦楽監督。公益社団法人全国公立文化施設協会会長。